

ほを見てあやしみ笑ふ、おどろきて鏡をとりて見ればかくのごとし、是死る代りなりと悟りて  
醫療をくはへず、今五十三歳までながらへたりと語るに、さては今も堅く殺生をつゝし、み給ふ  
らんといへば、其事に侍ふ、いつともなくゆるびて、此近き年比は、また折々漁獵するは、他に慰む  
ことなければ也といふに、そはあしきことなり、さばかりの現益を見、父も亦いましめ給へるも  
のをといさめて、旅舎へ歸りしが、あやしきことは、其夜此男頓死せり、若し吾言をげにもと罪に  
伏したる所にて、天刑を示し給へるか、官の罪人を刑せしめ給ふも、罪に伏して行るゝ、也などか  
たらる、彼塞翁が神相は予が相識も、彼是試みて語れり、中には無病の人を見て、此月の中を過す  
身まからんといひて當れるもありき、右の殺生によりて命短しと知ぬるも奇也、顏淵の短命い  
かにもすべからずといへども、先善を行ひ不善をとめて後こそ、實に修短の命には委ぬべ  
けれ、

〔雲錦隨筆〕士農工商ともに身上を稼ぐ者は、第一養生をして長命を本とすべし、短命にては何  
程の功も立がたし、昔道三といへる名醫、養生は有ものとして、松虫を七年飼おきて人に見せられ  
しとぞ、又人は無事なる時を悦ぶべし、一生の浮沈變に従ひいつを知らず難儀に及ぶ、是世界の  
常なり、

〔古事記〕仁德一時、天皇爲將豐樂而、幸行日女島之時、於其島雁生卵、爾召建内宿禰命、以歌問雁生卵  
之狀、其歌曰、多麻岐波流宇知能阿曾那許曾波、余能那賀比登、蘇良美都夜麻登能久邇爾加里古牟  
登岐久夜、於是建内宿禰以歌語曰、多迦比迦流比能美古宇倍志許曾斗比多麻閉、麻許曾邇斗比多  
麻閉、阿禮許曾波、余能那賀比登、蘇良美都夜麻登能久邇爾加里古牟登、伊麻陀岐加受、

〔公卿補任〕仁德大臣

武内宿禰

五十年三月、有雁產茨田堤、以歌問答之事、武内宿禰行事絕筆於此、

云、或云、仁德天皇五年、丁卯、但年未詳、